

今年度重点的に取組んでいる施策【 3 確かな学力の育成 】

○具体的な取組内容

1. 授業改善アドバイザー事業

【目的】

小学校、中学校の学習指導要領にも記載されている、「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業スタイル（あらおベーシック）を構築し、教職員の授業技術力の向上を図る。

【取組状況】

「あらおベーシック」（めあての指示・話し合い活動・まとめと振り返り）による授業改善への意識は高まりつつあるが、依然として教師主導型の授業が多く見られる。今後、継続して確実に実施するために、授業改善アドバイザー（西留安雄氏）を招き、講演、学校訪問及び取組評価と改善策の指導、助言を行うことにより、更なる授業改革に取り組むものである。

具体的な内容としては、以下のとおり

< H 3 1 年度 > * 各回の指導に併せ、勉強会（西留塾）を開催

第 1 回 (R1.6.4~5)	荒尾四中、海陽中、中央小、有明小にて現場指導	
第 2 回 (R1.7.1~2)	桜山小、緑ヶ丘小、平井小、万田小にて	〃
第 3 回 (R1.9.12~13)	清里小、荒尾一小、八幡小、府本小にて	〃
第 4 回 (R1.10.17~18)	緑ヶ丘小、桜山小、万田小、平井小にて	〃
第 5 回 (R1.11.6.~7)	清里小、荒尾第一小、荒尾海陽中にて	〃
第 6 回 (R1.12.16~17)	有明小、荒尾四中、中央小にて	〃
第 7 回 (R2.1.28~29)	荒尾三中、八幡小、府本小にて	〃

2. 英語教育の充実事業

【目的】

グローバル化が進む中で、国際共通語である英語力の向上が重要である。新学習指導要領において小学校 3.4 年で外国語活動、5.6 年で外国語が実施されるため、英語教育充実のための環境整備を図る。

【取組状況】

- ・ 外国語指導助手事業では、平成 30 年度から 3 名体制から 5 名体制に強化
- ・ 英検チャレンジ事業では、昨年度から市内中学校に通う全中学生に拡充
- ・ 中学校へのデジタル教科書導入
- ・ 教育課程特例校での小学校英語専科教師の活用
- ・ 新学習指導要領に係る外国語の授業の前倒し実施

(小学 3.4 年 35 時間/年 小学 5.6 年 70 時間/年)

今年度重点的に取組んでいる施策【 1 1 教育環境の整備・充実 】

○具体的な取組内容

1. 学校施設等長寿命化計画

【目的】

市内の学校施設の老朽化対策としての改修工事については、今後一定期間に集中し支出が膨大になることが予想されていることから、トータルコストの削減及び支出を平準化するための手立てとして、「学校施設の長寿命化」を図るもの。具体的には、「施設の目標使用年数の設定」と整備の優先順位をつけるための、「施設躯体の健全性評価調査」を行う。

【概要】

本市の学校施設は、築30年以上となるものが「約7割」にもなっており、老朽化対策が急務となっている。(築40年以上：約2割)

一方で、従来型の改築を中心とした整備計画のままでは、今後大規模改修と改築の時期が重なり、多額の整備費用が必要となることが危惧されている。

*今後40年間の経費試算：352億円(年当たり8.8億円)



学校施設の長寿命化(延命化)対策により、トータルコストを「230億円」まで削減する。(▲122億円)

*学校施設の長寿命化計画(個別施設計画)については、文部科学省から令和2年度までの策定を義務付けられ、併せて国庫補助対象の条件とされた

【計画概要1(対象施設)】

市内小中学校13校(概ね200m²以下を除く)、学校給食センター

*学校給食センターについては、新センター整備経費にかかる国庫補助対象とするために対象とした

【計画概要2(目指すべき姿)】

①安心・安全および災害時の拠点施設(安全・防災面)

②多様な学習への対応でき、快適性や環境に配慮した施設(学習・生活面)

③他の公共施設との複合化のほか、地域に開かれた施設(複合化・効率性)

【計画概要3(計画期間)】

・計画期間は、上位計画である「荒尾市公共施設等総合管理計画」との整合を図る旨、「2017年から2056年」の「40年間」とする

・実施実行については、施設の老朽化状況等の実態を継続的に把握し、PDCAサイクルによる実行システムを構築するとともに、原則として5

年ごとの計画の見直しを行うことを基本とする。

【計画概要 4（整備方針）】

- ・目標使用年数は、現行の「60年」から「80年」に延長する。
（耐用年数を20年延ばす）
- *「プール」については、現行の「30年」から「60年」とし、改築に当たっては、「共用使用」などを含め今後のあり方を検討する。
- ・「評価基準」については国の基準を適用し、耐震基準及びコンクリート圧縮強度をもとに、試算上の「改築」と「長寿命化」に区分する。
- ・整備内容としては、建替え中心の従来型から長寿命化へシフトし、具体的には、「構造躯体の長寿命化（酸化防止など）」、「屋根・外壁等の漏水対策」のほか、機能向上のための「内部仕上げ」、「設備機器の補修・交換」を行う。

【計画概要 5（健全度評価結果）】

- ・小学校施設の健全度の平均点は「59点」となっており、部分的な劣化から広範囲な劣化に移行しつつある状況にある（40点未満：桜山小校舎）
- ・中学校施設の健全度の平均点は「71点」となっており、部分的に劣化している状況にある。
- ・学校給食センターの健全度の平均点は「48点」となっており、部分的な劣化から広範囲な劣化に移行しつつある状況にある。
- *国の基準では40点未満は優先的に対策を講じることが望ましいとある。

【取組状況】

平成31年3月に「荒尾市学校施設等長寿命化計画」を策定し、今年度に各関係部署・機関に報告。

2. 教育 ICT 整備とプログラミング教育事業

【目的】

電子黒板やタブレット等 ICT 機器の効果的な導入や授業等への活用を確実に定着させ、ICT の特性や強みを児童生徒の主体的・対話的で深い学びにつなげていき確かな学力の向上を目指していく。また、学習指導要領の変更に伴い、プログラミング教育を授業に取り入れ、児童のプログラミング的思考を養う。

【概要】

電子黒板やタブレット等の ICT 機器を効果的に導入し「教育の質」を高める取り組みを行っていくために「荒尾市教育 ICT 整備計画」を策定し、「生きる力」をはぐくみ特色ある教育の充実を図っていく。

<整備状況：H29.3月時点>

品目	荒尾市	熊本県（平均）	国（平均）
電子黒板（整備率）	30%	30.2%	24.4%
無線 LAN（整備率）	0%	19.8%	29.6%
教育用コンピュータ （1台当りの児童生徒数）	10.9人	5.1人	5.9人

【取組状況】

- ・平成30年度より ICT モデル校として ICT の利活用を進めている、桜山小学校に、タブレット 60 台と無線環境の整備。
- ・市内全ての小中学校の普通教室と特別教室に、電子黒板、書画カメラ等の整備。
- ・夏休みを利用して児童と教職員を対象とした、プログラミング講座を実施。
- ・研修等を実施して、プログラミングや機器の利活用についての促進を図る。

【今後の整備計画】

<平成31年度>

- ・大型提示装置（電子黒板）、実物投影機（書画カメラ）、指導者コンピュータ（5年リース）
- ・桜山小（研究指定校）
（モデル校）のデジタル教科書、学習者用コンピュータ（タブレット）購入
- ・ネットワーク整備（無線 LAN）

<平成32年度>

- ・デジタル教科書（小学校分）4年版購入
- ・学習者用コンピュータ（タブレット）（5年リース）
- ・校務支援システム（5年間の保守契約）
- ・ICT 支援員配置
- ・ウイルス対策ソフト毎年購入

<平成33年度>

- ・デジタル教科書（中学校分）4年版購入

3. 新学校給食センターの整備・運営方針

【目的】

「学校給食センター」については、施設等の老朽化に伴い、「ドライシステム」などの学校給食衛生管理基準の確保が難しくなっていることに併せ、調理全般にかかるスペースの狭さやそのことによる作業効率の低下を招いていることなど施設全体の抜本的な整備が最優先課題となっている。

課題解消とともに安心・安全でおいしい給食の提供を安定的に行うため、新学校給食センターの建て替えを実施する。

【概要】

◆建設用地

現地拡張（ダルマックス西側駐車場：約 2,780 m²）

◆全体工程

H31年3月 「新学校給食センター」の共同整備にかかる長洲町との基本合意

H31年4月 荒尾市・長洲町新学校給食センター共同整備連絡会議
（合同検討組織）の設置

R2年1月 基本構想・基本計画・PFI導入可能性調査のまとめ及び
新センターにかかる「経費負担」、「運営形態」の決定

R2年度 基本設計、実施設計
*PFIの場合、「PFIアドバイザー契約」あり

R3年度 建設工事

R4.9月 供用開始（その後、現行センター施設の解体・撤去）

今年度重点的に取組んでいる施策【1 家庭・地域の教育力の向上】

○具体的な取組内容

くまもと親の学びプログラム

【目的】

核家族化や地域における地縁的な繋がり希薄化等により、家庭教育力の低下が指摘されている中、様々な家庭に配慮した全ての親へのきめ細かな家庭教育支援を学校と連携のもと実施し、家庭教育力の向上を図る。

【取組状況】

各地域の学校、関係機関、社会教育団体の連携による支援体制づくりを推進するとともに、県が作成した参加体験型の「くまもと『親の学び』プログラム」の普及を図る。

◆くまもと『親の学び』プログラム

より多くの保護者が、親として学び、親同士のつながりづくりの機会を増やすために、保護者が集まる機会に活用できる学習プログラムを県教育委員会が作成したもの。

「スタート（乳幼児期）編」、「スマイル（小学生期）編」、「ステップ（中高生期）編」、「次世代編」がある。

◆平成 30 年度開催講座

全 32 講座 参加者総数 2,427 人

講座分類	開催回数	開催場所	対象者	参加人数
就学時健診 (小学校)	7 回	小学校 7 校	保護者	374 人
体験入学 (小中学校)	8 回	小学校 7 校 中学校 1 校	保護者	490 人
保育園等	15 回	保育園 4 園 支援センター 1 園	保護者	189 人
その他 (学校行事等)	12 回	小学校 5 校 中学校 7 校	児童生徒	840 人
			保護者	534 人
	32 回			2,427 人

保育園での親の学びプログラム（乳幼児編）



今年度重点的に取組んでいる施策【12 地域社会における教育力の向上】

○具体的な取組内容

地域学校協働活動事業

【目的】

地域と学校が連携・協働して地域全体で子どもの成長を支えていくことで地域の教育力の向上を目指す。地域の大人が多く関わることで、児童生徒の多様な体験機会の増加、規範意識やコミュニケーション能力の向上など、学校教育の充実が図られる。地域住民においても、自らの経験を活かす場となり、生涯学習社会の実現や生きがいづくりとしての効果も期待できる。

【取組状況】

学校の授業補助やクラブ活動の指導・学校環境整備など学校の要望に応じた活動を支援。H23 から県補助を活用して海陽中校区で実施。

H29.9月より全小中学校区に拡充。学校と地域のコーディネーター役として地域学校協働活動推進員を6名配置（各中学校区に2名ずつ）

◆学校の依頼に応じた支援活動例

- ・学習支援（習字、水泳、陸上、プリント丸付け、家庭科ミシン、調理など）
- ・行事支援（読み聞かせ、引き渡し訓練、食育など）
- ・環境整備支援（学校図書整理・ブックカバー貼りなど）
- ・安全活動支援（校外学習の引率、下校見守りなど）

◆地域への貢献による活動例

- ・小学生夏休み英会話教室の中学生スタッフ協力（中学生14名）など

◆学校支援活動支援事業費

H30実績／支援活動1,299回、ボランティア延べ人数5,255人

※地域学校協働活動推進員がコーディネートした取組のみを集計

年度	支援活動数	ボランティア延べ数	うち児童生徒参画者数
H28	444回	1,102人	
H29	574回	2,069人	
H30	1,299回	5,255人	676人
R1(8月末)	574回	2,577人	303人

府本マルシェ（地域と学校が連携したイベント）



今年度重点的に取組んでいる施策【17 生涯スポーツの推進】

○具体的な取組内容

3. あらお放課後子どもスポーツ教室実施事業

【目的】

市内小学校において、子ども達を心豊かに健やかに育むために、安全・安心な活動拠点である放課後の学校施設・時間を利用し、楽しく安全に参加できる運動教室を実施する。児童が運動する機会を確保し楽しみながら運動することを経験させることで、体を動かす基本動作を身につけるとともに、体力の維持向上を図りながらスポーツに対する興味や関心を高めていく。

【取組状況】

主 催 荒尾市教育委員会

協 力 荒尾市体育協会、NPO 法人ひとづくりくまもとネット

実施校 モデル校として選定した3校にて実施

対 象 実施校へ通学している4～6年生の児童

実施内容

実施校	万田小学校	八幡小学校	桜山小学校
期 間	9/3～3/17	9/4～3/18	9/5～3/19
実施曜日	火曜日	水曜日	木曜日
時 間	16:30～18:00 (5限)15:30～17:00	16:30～18:00	16:30～18:00
実施回数	26回	27回	27回
参加人数	25名	17名	17名
種 目	第1期	バレー	卓球
	第2期	テニス	バドミントン
	第3期	卓球	バレー

指導員 あらお放課後子どもスポーツ教室コーディネーター
生涯学習課職員
荒尾市体育協会より種目ごとに指導員



今年度重点的に取組んでいる施策【18 文化財の保護と活用】

○具体的な取組内容

1. 孫文記念館交流事業

【目的】

世界各地にある孫文記念館との交流を図り、宮崎兄弟に関する学術研究に寄与すること、及び文化面にとどまらない交流につなげることを目的とする。

【取組状況】

平成 26 年度にシンガポール孫中山南洋記念館晚晴園と学術交流を主軸とした提携を約する調印式を行った。また、平成 27 年度は両館提携についての基本協定書に基づいた交流として、史料のレプリカ交換式を行った。

協定期間最後の年となる今年度は「共同報告書」を発刊し、シンガポール国家文物局と様々な交流の可能性を視野に入れ更に密接な協力関係を結ぶため新たに基本合意書を締結した。

新たな基本合意書では、それぞれの教育施設における青少年交流等、共同報告書の活用及び普及に関する事業や一般市民向けの活動及び交流、様々な交流の可能性を視野に入れた学芸事業、文化財の保存、スタッフ交流などの協力を行うこととしている。

平成31年度 荒尾市教育重点事項

あらおベーシック

学校

課題設定・**見通し**

課題解決に向けた**学び合い**活動
(全員**活躍**型授業)

まとめ
振り返り

- ★支持的風土の醸成
- ★単元全体のマネジメント
- ★表現、交流の場と量の確保

※アンケート調査実施と分析

45(50)分 完結

家庭

基礎基本の定着
(**短時間集中型**学習)

授業と連動した
家庭学習

- ★メディアコントロール
- ★主体的な家庭学習への取組
- ★小60分以内、中90分以内

ICT機器の積極的な活用 ・ メディアリテラシーの育成

新学校給食センター建設に関する進捗状況

令和元年10月8日(火)
荒尾市総合教育会議

1. 今年度の進捗状況

年度	2019年度												2020年度	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
基本構想・基本計画														
PFI導入可能性調査														

基本構想・基本計画並びにPFI導入可能性調査(プロボ結果)
 <1次審査>5社の申し込みから書類審査により4社を選考。
 <2次審査>4社のプレゼンを行い、下記最優秀業者と契約。

- ・契約業者 (株)建設技術研究所 熊本事務所
- ・契約日 令和元年7月25日
- ・契約期間 令和元年7月26日 ~ 令和2年1月31日
- ・契約金額 12,936,000円(税込み)

<長洲町との協定>

新学校給食センター建設に向けた基本構想及び基本計画並びにPFI不導入可能性調査に係る業務について、下記のとおり協定を締結している。

- ・締結日 平成31年4月23日(火)
- ・業者の決定 荒尾市と長洲町が共同して行う。
- ・契約の主体 荒尾市が契約し委託料を支払う。
- ・費用の負担 荒尾市50%、長洲町50%とする。

基本構想・基本計画(案)の一部抜粋

<基本理念>

- (1)安全性 高い衛生水準と安心安全でおいしく、かつ栄養バランスが整った給食が提供できる施設とする
- (2)機能性 給食提供の本来の目的とともに、食育の観点を考慮し、併せて食物アレルギー対応が可能となる機能を備える
- (3)効率性 作業環境や周辺環境に配慮した、効率的かつ質の高い施設整備を目指す

<基本方針>

- (1)高い衛生水準で安心安全な学校給食の提供
「学校給食衛生管理基準」「大量調理施設衛生管理マニュアル」により衛生的かつ安全な施設とする。
- (2)おいしい学校給食の提供
保温、保冷機能に優れた食缶等の導入、多彩な献立に対応できる調理設備を図る。
- (3)効率的な学校給食の提供
調理員の動線の短縮化を図り、調理工程を効率的に行う。
- (4)食育機能
教育・学習習慣にも繋がる食育活動が可能な機能を整える。また、アレルギー対応室も整備する。
- (5)環境負荷低減
生ごみの発生及び排出の抑制し、防音対策、脱臭対策など周辺環境に応じた施設とする。

年度	2019年度												2020年度	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
ダルマックス 鳥居・樹木等補償														
ダルマックス 用地取得														
雨水管移設工事														

2. 益城町学校給食センター視察（令和元年8月8日（木））

①調理室



②回転窯(ドライ式)



③アレルギー対応室



④籠ごと食器洗浄機



⑤見学通路(モニター付き)



⑥コンテナ室



⑦施設配置図



<施設の概要>

平成31年4月より供用開始、オール電化の施設
鉄骨造平屋建て

提供校数: 小学校5校、中学校2校
提供食数: 4,000食/日(うちアレルギー対応食40食)
アレルギー対応児童生徒数: 45名

3. 今後のスケジュール(従来方式(公設)による場合)

年度	2019(令和元年度)				2020(令和2年度)				2021(令和3年度)				2022(令和4年度)				2023(令和5年度)				
	4.5.6	7.8.9	10.11.12	1.2.3	4.5.6	7.8.9	10.11.12	1.2.3	4.5.6	7.8.9	10.11.12	1.2.3	4.5.6	7.8.9	10.11.12	1.2.3	4.5.6	7.8.9	10.11.12	1.2.3	
基本構想・基本計画 PFI導入可能性調査		計画	PFI調査																		
実施設計						実施設計															
新学校給食センター 建設工事																					
既存給食センター 解体工事																					

2022年9月
新施設による給食開始



既存 解体

楽しく子育て! くまもと「親の学び」プログラム

くまもと「親の学び」プログラムとは、

参加体験型の学習スタイルで、子育てのコツを身近な話題から楽しく学ぶプログラムです。



いつするの?

- PTA行事
- 就学時健康診断
- 保育参観
- 集団宿泊研修 など

どんなプログラム?

【保護者対象】

- ①スタート(乳幼児期)編
- ②スマイル(小学生期)編
- ③ステップ(中高生期)編

【中高生対象】

- ④自立を育むコミュニケーションプログラム(次世代)編

メリットは?

参加者同士の語り合いの中で、家庭で大切にしたいことに気づいたり、子育てに前向きな気持ちを持てるようになったりします。

～「親の学び」講座の流れ～

1

ねらいの確認



キーワードを提示し、活動のねらいを確認。

2

アイスブレイク



簡単なゲームなどで、心と体をときほくします。

4

まとめ

活動を振り返り、まとめをします。



3

グループワーク

グループでコミュニケーションをとりながら学びを深めます。



プログラムの内容や進め方の詳細については、熊本県教育委員会HPを御覧ください。